

# ひとつひとつの活動を「質的」に高める

## 地域運営学校7年目の課題に向き合いながら

9月12日、校長室にて第9回  
学校運営委員会が開かれました。

今回は、教育実習（観察実習）中の東京都  
市大学の学生4名と学生の指導にみえた助教  
の渡邊大輔先生がオブザーバーとして同席し  
ました。

最初に、杉山校長より学校の近況について  
報告がありました。

次に鶴岡先生が「5年生が、総合的な学習  
の時間の取り組み『Qiden Walker  
（給田ウォーカー）を作ろう』という授業  
で地域のみなさん取材させていたが、  
幼小交流で園児のお世話をしていたが、  
もって地域をまわることで、より多くのこ  
を感じてきてくれると期待している」と話さ  
れました。また、安部先生からは「現在、  
『あいさつ週間』として1学期に1度1週間  
だけ門に立ってあいさつを行っているが、10  
月からも曜日を決め継続して行ってみよう  
ということになった。6年生の一部の児童が授  
業の中で『わくわくフェスティバルでの野菜  
の販売』を企画から当日までを保護者や地域  
の大人と一緒に体験することができ『総合的  
な学習の時間』の価値が高まった」と話が  
されました。また、「教育委員会から『小学  
生のある家庭に友人の児童名・住所・電話番  
号などの個人情報聞き出す電話がかかって  
いるので注意を呼びかけて欲しい』との指示  
を受け、給田小でも各家庭・児童に注意喚起

**議題**

1. 校長より  
学校の近況報告
2. 主幹教諭より  
総合的な学習の時間の取  
り組みについてなど
3. 委員より  
委員長より
4. 委員より  
個人情報の取り扱いにつ  
いてなど
5. リエゾン・オフィスより  
漢検、QWについて

出席者  
井上、清水、福原、椿、  
増本、林、杉山、  
片山、鶴岡、安部  
リエゾン・オフィス  
オブザーバー  
東京都市大学 渡邊先生  
教育実習生4名

の連絡をした」ことが報告されました。

井上委員長からは「子どもたちが地域の大人とかかわることはこれまでもあったが、幼小交流で園児のお世話をしたり5年生がそこで経験したことを覚えていっているうちに、地域の大人と一緒に活動することが新しい展開。これまでとは違った成果がみられるかもしれない。あいさつ運動にしても、あいさつ週間が終わってからは継続すること、何がどう変わっていくのか、どう変えていくのかという思いや視点を持つことが重要」とお話がありました。

続いて、学校運営委員会通信及び学校ホームページへの個人情報掲載について、児童の個人が特定できる写真を掲載する場合、今後は承諾書をお願いした上で掲載すること、HPへ掲載する際には児童の名前は苗字のみにすることを確認しました。

次に、増本委員から夏休みのボランティアについて「図書室開放でボランティアの保護者が連れてきた未就学児に、低学年児童が読み聞かせをしている姿が見られた。とても良いかかわりがもてていたと思つ」と感想が述べられました。

リエゾンからは「現在、漢字検定の当日ボランティアの募集をしている。5年生が『Qiden Walker』の授業で訪問する商店や事業所30力所から承諾をいただいたことなどが報告されました。

議事が終了した後、オブザーバーとして参加された渡邊先生が「昨年も一度、参観させていただきました。その時は、子どもが地域と共に行き、地域もまた育つといつ、まさにその現場を指間見た気がいたしました。今回の発表は、実践の成果をこれまで行ってきた活動との関連でとらえる視点を先生がたと保護者・地域の方が双方で意識されていること、です」とお話いただきました。

# 三重県亀山市・北海道北斗市 からの視察を迎え

## からの視察を迎え

8月29日に、  
三重県亀山市  
から2校目と  
なる亀山市立  
川崎小学校の  
方がたが視察  
にいらつしや  
いました。



給田小の地域運営学校の取り組みを紹介した「放送大学」のDVDを見ました。

最初に、世田谷区教育委員会  
の水野課長から「世田谷区の地  
域運営学校の取り組み」を、次  
に杉山校長からは「給田小の概  
要」「地域運営学校になってか  
らの変化」について説明があり  
ました。

川崎小の方がたからは、学校  
運営委員会の組織や役割について  
質問があり、「給田小の学校運  
営委員会は、何かイベントをや  
るのではなく、もともと盛んだっ  
たPTA活動やボランティア活  
動を価値づけることに取り組んで  
いる」と清水委員が応えると、  
少し驚かれていた様子でした。

また、川崎小学校はこれから  
改築を控えているとのこと、  
給田小では改築を契機に各種のボ  
ランティアチームが立ち上がり  
現在の地域運営学  
校の礎となったこ  
とに強い関心を抱  
かれていたよう  
です。

続いて、9月11  
日には、北海道北  
斗市立上磯小、上



北海道北斗市からいらしたみなさんに校内を案内しました。

磯中、追分小、追分中の各校から  
4名の主幹の先生が来校されまし  
た。  
まず、片山副校長から給田小  
の概要が紹介され、続いて、井  
上委員長から地域運営学校の指定  
を受けた経緯や委員会の活動の重  
点について、次のような説明が  
ありました。「給田小は平成19  
年度に地域運営学校（以下、CS  
S）の指定を受けた。当時、校  
舎の改築が計画・実施され、そ  
れを機に保護者や地域住民の学校  
への思いが高まり、さまざまな  
支援活動が活発に行われていた。  
スタート時点で、学校と保護者、  
地域住民との連携・協働がある程  
度、実現されていることは心強  
かったが、同時に、CSとなる  
ことで何が変わるのかを考えるこ  
とが大きな課題となった。その  
ため委員会では、『CSとして  
の3つのビジョン』を作成し、  
ビジョンにもとづいた協働と振  
り返りを大事にしている。また、  
委員会で発行している『学校運  
営委員会通信』は、地域コミュ  
ニティを意識したメディアであ  
り、学校で行われているさまざま  
な活動をCSの視点から価値づ  
けることに取り組んでいる。」  
最後に、杉山校長が世田谷9  
年教育について説明をしました。  
その後、全員で給田小の校内を  
まわりながら、お互いの学校の  
実情なども話し、終始和やかな  
ムードで視察を終えました。



# 教えてー！井上先生

今年度からすべての区立小中学校で「世田谷9年教育」が始まりました。「温知学舎」と「烏山学舎」の2つのグループに属する給田小はどのようなのか？私立中に進学する子どもたちは関係ない？・・・と不安に思っている方も多いいのではないのでしょうか。

そこで、今年度の「学校運営委員会通信」では、給田小の「世田谷9年教育」への取り組みを紹介しながら、井上先生にお話を伺います。



学校運営委員会  
委員長 井上健 先生

東京都市大学  
共通教育部 教職課程 教授

Q 今年度から「世田谷9年教育」がすべての区立小中学校で実施されることになったそうですが、そもそも「世田谷9年教育」とはどのような教育なのでしょうか？

A 「世田谷9年教育」は、区教育委員会によれば「区立小・中が一体となって、より質の高い9年間の義務教育の実現を目指す取り組み」です。でも、それだけではよくわかりませんよね。背景には「学校教育法」が改正（平成19年）され、それまで

小学校と中学校とで各々定められていた教育の目的が「義務教育」という観点から統一されたことがあります。子どもたちが学校で何を学ぶのかについては国が定める「学習指導要領」という基準があるのですが、世田谷区ではそれを踏まえながら、独自の「義務教育9年間を通じた学習目標や内容、学校運営のあり方など」を定めています。それが「世田谷9年教育」と言われるものです。

Q これまでの教育がどのように変化しているのか、もう少し、具体的に教えていただけますか？

A 「世田谷9年教育」の具体的な内容については、「世田谷区教育要領」(区教育委員会のHPよりダウンロードできます)に描かれているのですが、私なりに大事なポイントを3つあげましょう。

①「世田谷9年教育」は「区立小・中が一体となって・・・」と言われますがそれぞれの小・中学校の伝統や主体性は尊重されますし、小学校を卒業して中学校に入学するという「人生の節目」も大切にしています。その点が「施設一体型の小中一貫教育」とは異なります。

②「質の高い9年間の義務教育を目指す・・・」に関しては、「世田谷区教育要領」では「世田谷区の子どもた

ちは、よく勉強しますし、意欲的です」と評価し、そうした「よく学ぶ世田谷区の児童・生徒にふさわしい学習内容」を定めていることが重要です。そのため、国の基準である「学習指導要領」にはない「ことばの力を高める言語活動例」や「発展的に学習する内容」がたくさん例示されています。

③「世田谷9年教育」は、単に「小・中学校が一緒に学校行事や地域での活動をする」ということではなく、9年間の子どもたちの発達をトータルに見通しながら、小・中学校での一年一年の教育活動を充実させていくことに力点があります。私たちがCSの活動で取り組んできた「地域とともに子どもを育てる」にも、小学校6年間だけでなく、もう少し長いスパンでの視野が求められてきますね。

Q 「世田谷9年教育」は、「学び舎(学舎)」単位の活動だけを指しているわけではないのですか。そうは言っても、給田小は上祖師谷中と烏山中に学区が分かれてしまったため、特色ある取り組みを行うのは難しいのではないのでしょうか？

A 確かに、学区に区立中学校が1つしかない小学校に比べれば、難しい点があることは否めません。でも、前述のように、「世田谷9年教育」は必ずしも「小・中学校が一緒に学校行事や地域での活動をする」こと

ではありません。上祖師谷中、烏山中との連携・協働は有意義なことですが、私たちとしては、「よく学ぶ世田谷区の児童・生徒にふさわしい学習内容」の部分へも関心を高め、給田小の子どもが9年間の義務教育を終える時にどんな力を身につけていくのを見守っていくことが大切なのではないでしょうか。また、「それぞれの小・中学校の伝統や主体性は尊重」されるわけですから、これまで通り、「給田らしさ」を大事にしていきたいですね。

デキバキと誘導する姿が頼もしく感じられます。



上祖師谷中の1、2年生による運動会ボランティア

単に「中学生が学校行事に来てくれて嬉しい」ということではなく、中学生になった子どもの成長を通して、小学校の教育活動を充実させるということですね。

井上先生ありがとうございました。「世田谷9年教育」が始まると、給田小の中で子どもたちが学舎ごとに分かれてしまうということではないのですね。

小学校の行事に来てくれる中学生が増えたことで、子どもたちにとっても「中学生」をイメージしやすくなった気がします。そうした意味では、二つの中学校(上祖師谷中、烏山中)のいろんな先輩たちに触れ合えることは、むしろ、恵まれていると捉えてもいいのかもしれません。

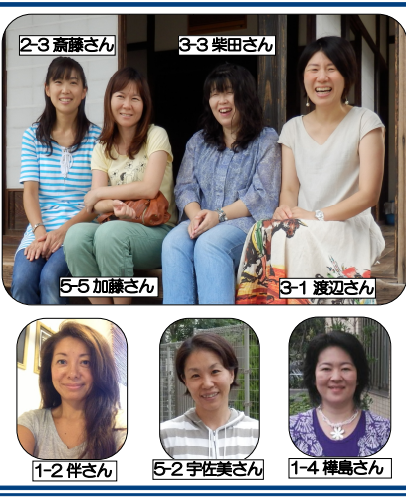


今年で6回目となる給田小の「サマー・スクール」は、子どもたちが普段はできないようなことに取り組んだり、担任の先生や家族以外の大人と交流したりして、豊かな人間関係を作っていくことを目指しています。

今年も7月22日・23日・24日の3日間に行われました。

保護者、地域、卒業生のみなさんが講師やボランティアで支えてくださっているのも、給田小の「サマー・スクール」の特徴です。学校の先生ではない先生に教えてもらったり、中学生が優しく手伝ってくれたり、ボランティアの大人にたくさん褒めてもらえるサマー・スクールを子どもたちは楽しみにしています。けれどもボランティアの申し出は残念なことに年々減少しています。昨年度は、学校運営委員と一緒に「サマー・スクールの運営をしてくださる「スタッフ」には残念ながら一人の応募もありませんでした。

**サマー・スクールを存続させたい!**と集まってくれた「運営スタッフ」のみなさん。柴田さんと加藤さんは、講師としても活躍されました。



サマー・スクールに参加したいという子どもたちは、毎年増え続けており、昨年度は15講座で延べ359名の募集に対して延べ500名を越える応募がありました(結果として、150名の子どもたちが受講できない状況になりました)。準備から当日の運営までを学校運営委員だけで行うのはすでに限界を越えています。楽しみにしている子どもたちのことを思うと心が痛みますが、関係者でなんども議論を重ねた末、「運営スタッフ」が集まらなかつたら、「今年度のサマー・スクールは実施しないことにしよう」と苦渋の決断をし、4月の保護者会全体会でみなさまがたに正直にお伝えするともに、ボランティアの募集を行いました。すると、「講師をした経験はありますが、スタッフとしてもかかわってサマー・スクールを継続させていきたい」「毎年子どもが楽しみにしています。自分にも出来ることがあれば是非」「1年生でサマー・スクールは未経験ですが、保護者会の話に共感しました」と、7名の方が「運営スタッフ」に名乗りを上げて下さいました。今年の開催を半ばあきらめかけていた委員にとつてこんなに嬉しいことはありませんでした。さっそくみなさんと準備に取りかかり、今年度も、左下の表にあるように17講座を開講することができました。結果として、心配していた「受講

# 今年も開催できました「給田小サマー・スクール2013」

## 運営スタッフと講師のみなさんに感謝!



「宇宙の不思議」を開講して下さった**島匠さん**(高校生)・**島厚子さん**(お母さん)は共に給田小の卒業生です。「子どもたちにも今度いっしょに卒業生を呼ぶの?」と聞かれて嬉しかった。このような形で自分が卒業した小学校とかかわれて良かったです」と匠さんが話してくれました。



「子どもたちへの声かけや気遣いができる姿に感動した」と、ボランティアの方がたからたくさんのお話をいただきました。感想をいただきました。私たちもスタッフのみなさんと一緒に悩み、考え、そして楽しく準備を進めることができました。



「高学年のしっかりとした様子、低学年への声かけや気遣いができる姿に感動した」と、ボランティアの方がたからたくさんのお話をいただきました。感想をいただきました。

- 講座と講師のみなさん** 敬称略
- かおりはっけん! アロマテラピー アロマを学ぶ 私の香り 赤堀真里(卒業生保護者)
  - 書道教室 ~名前を書く~ 宇宙の不思議 永野有香(保護者)
  - 竹とんぼ教室 英語でshopping 島匠(卒業生)
  - 給田のブルーベリーでジャムを作ってパンケーキを食べよう(2講座) 島淳子(卒業生保護者)
  - 裏千家茶道教室 化石のレプリカのキーホルダーをつくろう 滝澤直幸(地域)
  - 万華鏡をつくろう かんたん 刺しゅうレッスン 加藤多佳子(保護者)
  - 読書感想文名人になろう! 稲井達也(日本女子体育大学教授)
  - スイーツデコ教室 音楽劇「となりのトトロ」 吉澤敦子(保護者)
  - 手のひらサイズの小さな本をつくろう 山路智子(保護者)
  - エンジョイ ハンドボール 亀井良和(日本女子体育大学専任講師)
  - 須甲理生(日本女子体育大学講師)



上祖師谷中茶道部のお姉さんたちも丁寧に指導してくれました。

改めてサマー・スクールに参加、協力してくださったすべてのみなさまに感謝申しあげます。みなさんのご協力あってのサマー・スクール。来年もお会いできることを楽しみにしています。



# もつと地域を知ろう!

## 学校運営委員会 校外勉強会

新しい委員4名を迎えH25年度の学校運営委員会が発足しました。毎年メンバーが入れ替わる中、今年も、委員がまず自分たちから地域を知り、「コミュニケーション・スクールの視点を磨こう」と委員会活動とは別に自主的に「校外学習会」を行っています。5月には「消防団」の訓練を見学に行きました。

今回は、初夏の気配が感じられる6月29日、運営委員のメンバーや子どもたちが、運営委員OBの**土屋俊幸さん**の案内で**高橋哲也さん**の畑にトウモロコシの収穫に行きました。



この日、高橋さんが不在だったため、土屋さんから「トウモロコシは一本の株から一本しか収穫できません。種を蒔き10cmほど伸びた時に2株残して間引きし、20cmくらいになったら生育のいい株を一本残して育てます。実の先についている毛が褐色になったものを収穫してください」と説明があり、みんな茶色のヒゲを探して収穫しました。そして、その場で豪快に皮をむいてそのままガブリ!

ぐわ〜甘いも〜いっしょ!

トウモロコシの実の収穫後ほとんど糖度が下がるので、もぎたてがとにかくおいしいとのこと。持ち帰ったものもすぐに茹でておいしくいただきました。



収穫をしながら気になったのは、これまたおいしいうに実をつけている野菜たちです。「夏野菜の収穫がしたい」と、図々しくも高橋さんをお願いして、同じメンバーで再び畑を訪れたのは7月7日。



次々に掘り出される「じゃがいも」に大喜びの子どもたち

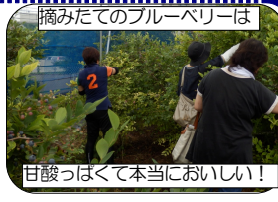
高橋さんの指導のもと、キュウリから収穫開始です。子どもたちから「トウモロコシがおいしい」と声があがり、大人たちも「新鮮なキュウリのイボはこんなに痛いんだね」とビックリ。

じゃがいも、枝豆、にんじん、ナス、トマトと次々に掘ったり、切ったり、引っこ抜いたりしながら、どんどん収穫しました。丹精込めて作られた野菜はどれもピカピカ、ツヤツヤです。掘りたてのじゃがいもは**まあいまい**がしました。



「おやじには、じゃがいもの作り方を教えてもらわなかったなあ」と笑う高橋さんは、世田谷区主催の「農業塾」で勉強中だそうです。先日、5年生

の総合的な学習の時間の授業「Queen Walker (以下、QW)」への協力をお願いをした時に、「台風で、ゴーヤとヘチマのトンネルが壊れ、ナスとピーマンの枝が折れてしまいました。でも、10月29日の『QW』で子どもたちが来るまでにはきれいな畑にしておきますね」とおっしゃってくださいました。



摘みだてのブルーベリーは甘酸っぱくて本当においしい!

見えて、聞いて、触って、嗅いで、食べて・・・収穫を通して私たち学校運営委員が肌で感じた地域を子どもたちに伝えたいと思いました。

みなさんは、給田の地域で「ブルーベリー摘み」ができることをご存知ですか? 給田小サマースクールを4日後にひかえた7月18日、「給田のブルーベリーでジャムを作ってパンケーキを食べよう」の講座で使うブルーベリーを**宍戸寛一さん**の畑(宍戸農園)に摘みに行きました。すっかり地域の畑が好きになった学校運営委員のメンバーと講師の**厳經敦子さん**で、よく熟れた大きな実を探すと1時間、小さなバケツ6杯分のブルーベリーを収穫しました。



収穫したブルーベリーを計量、バック詰めしてください。

ブルーベリーは夏が旬、おいしくていくらでも食べられます。来夏の夏休みには是非体験してみてください。サマースクール当日とてもおいしい「ブルーベリージャム」ができました。

### あとがき

子どもが給田小を卒業して2年、まさか自分が学校運営委員の一員としてかわるとは思っていませんでした。保護者として給田小にいた時には、「地域運営学校」ってなんだろう? 私には関係ないかな・・・ぐらいいい気持ちでした。

今こうして自分が学校運営委員のメンバーになり、子どもたちの笑顔のため、学校保護者、地域をつなげていく大切な役割をしていることを実感し、とても感動しております。

学校運営委員として、「給食ボランティア」「サマースクール」などの活動をしてみて、楽しそうな笑顔でボランティアに参加している地域のみなさん、自分の子どもだけではなくみんなのお母さんになって目を配っている保護者の方がたの姿にとても暖かい気持ちになりました。

給田小の学区内には幸せなことに数多くの畑があります。6月に高橋哲也さんの畑でのトウモロコシやナスなどの収穫に参加しました。我が家はトウモロコシが大好きでよく食べるのですが、高橋さんのトウモロコシはとて甘く、今年食べた中では「だんとつの一番」でした。世田谷の野菜がこんなに美味しかったことに感動しました。

運営委員1年生、給田小を盛りたてていくように自分ができることを探し、給田小の子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。

学校運営委員

榎 幸枝



「学校運営委員会通信」に掲載されている写真(個人が特定できる)等を含む個人情報には、ご本人の承諾を得て掲載しています。